

千葉工場における「鉄道輸送による物流システムの充実・強化」について

住友化学は、日本貨物鉄道株式会社（以下、JR貨物）、京葉臨海鉄道株式会社（以下、京葉臨海）と共同で、住友化学千葉工場の物流部門における効率化、環境負荷低減を目的に、2008年3月から、「鉄道輸送による物流システムの充実・強化」に取り組んでまいりました。その一環として、住友化学と東洋紡績株式会社（以下、東洋紡）との間で共同物流を実施することし、本日12月17日、京葉臨海：京葉久保田駅（千葉県袖ヶ浦市）にて、出発式を開催することとなりました。これまで、取り組んできた概要は、下記のとおりです。

記

1. 東洋紡との共同物流について

(1) 従来の取り組み

住友化学は、千葉工場で生産した合成樹脂を、東洋紡敦賀事業所（福井県）へ、専用の「ホッパーコンテナ」（20フィート、総重量13.5ト）により、鉄道（京葉久保田駅～敦賀港駅（南福井駅経由））を利用して輸送してまいりました。合成樹脂専用のコンテナであるため、納入後、コンテナは空の状態、千葉工場まで回送してまいりました。一方、東洋紡は、フィルム製品を、敦賀事業所から川越市（埼玉県）の拠点へ、トラックで輸送してまいりました。

(2) 共同物流に向けた取り組み

南福井駅（JR貨物）と敦賀港駅（JR貨物）の貨物列車輸送が、2009年4月に休止されることとなったため、両駅の有効活用の観点から、住友化学が要請ならびに支援・協力を行い、JR貨物は、より大型の「ISOコンテナ」（20フィート、総重量20ト）の取り扱いが可能となるよう、地盤改良、大型荷役機械（トップリフター）の設置など両駅の基盤整備を実施し、重量コンテナの輸送に適した貨車を導入しました。

この結果、従来使用していた専用「ホッパーコンテナ」から「ISOコンテナ」への変更が可能となり、東洋紡敦賀事業所から川越市の拠点までのフィルム製品の輸送に関し、トラック輸送の約5割を、住友化学が合成樹脂を納入したコンテナの帰り便を使用することで、鉄道へのモーダルシフトが可能となりました。また、「ISOコンテナ」への変更により、輸送単位の大規模化も同時に図ることができました。

2. その他の取り組み

(1) 「ISOコンテナ」輸送の拡大

敦賀港駅向け以外にも、名古屋臨海鉄道株式会社：名古屋南貨物駅をはじめ、各地への輸送を対象に「ホッパーコンテナ」から「ISOコンテナ」への切り替えを行うことにより、トラック輸送からのモーダルシフトと、輸送単位の大規模化を推進しています。当社は今後、合成樹脂以外の石油化学製品にも、「ISOコンテナ」を利用するモーダルシフトを拡大していく考えです。

【ご参考】千葉工場 物流部門におけるISOコンテナ鉄道輸送の拡大によるCO2削減量の推移

(単位：ト/年)

| | 取り組み前 (08年2月以前) | 現在 (09年12月時点) | 目標 |
|----------------------|--------------------|------------------|--------|
| 鉄道輸送量 | 49,000 | 60,000 | 95,000 |
| CO ₂ の削減量 | — | 360 | 780 |

(2) 汎用「12フィートコンテナ」の有効活用

JR貨物の貨物輸送においては、昨今の「ISOコンテナ」の活用の拡大に伴い、積載台車の両側にスペースが空くというロスが発生しています。住友化学とJR貨物は、当該空スペースに、JR貨物所有の汎用「12フィートコンテナ」を設置し、住友化学千葉工場の合成樹脂を輸送することで、トラックから鉄道へのモーダルシフトを進めています。

住友化学は、今後とも、モーダルシフトや輸送単位の大規模化などにより、住友化学千葉工場の物流部門における効率化、環境負荷低減の取り組みを推進していきます。

以上